

高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)感染疑い症例の対応報告

永石朗子(小林保健所) 中村久子(高鍋保健所)
斉藤皆子 蓑毛真寿美 岩本直安(日南保健所)
健康増進課 宮崎市保健所 県立宮崎病院
衛生環境研究所、国立感染症研究所

【要旨】

インドネシアに旅行中、鶏と接触し、帰国後発熱、関節痛、呼吸器症状を呈し、最終検査でインフルエンザ H5N1 が否定されるまで高病原性鳥インフルエンザの要観察例として対応した事例についてその経緯および対応と課題について報告する。なお、当症例はその後の検査の結果、過去に国内で報告のないオルソレオウイルスが分離されたため、同患者と妻および接触者について積極的疫学調査を実施した。

【はじめに】

新型インフルエンザの発生が懸念されている。今回鶏との濃厚接触と症状から高病原性鳥インフルエンザが疑われ要観察例として対応した事例を経験した。その後同症例は血清からオルソレオウイルスが同定され、国内で初と思われる輸入感染症としての側面もあった。関係機関との情報交換、意志決定、現場対応など多くの現実的な課題や反省点が浮き彫りになった。今回は当保健所の課題と対応に絞って報告する。今後さらに深刻な新型インフルエンザのパンデミック等に備えるために今回の事例を検証し今後の保健所における対策の参考としたい。

【症例概要】

38歳男性。平成19年11月8日～21日にインドネシアに妻と旅行。旅行中11月10日に現地ガイドの自宅で放し飼いの鶏を捕まえて喫食した。なお同ガイドは聞き取りで帰国2,3日前咳が持続していたとのことである。11月19日22時頃から発熱、関節痛等の症状出現。21日朝、関西空港経由で帰国、夕方宮崎空港に到着と同時に夜間急病センターを受診。発熱39、咳、咽頭痛あり。胸部X線検査で異常なく帰宅。同日夜中に意識朦朧として県立宮崎病院の救急外来受診。インフルエンザの迅速診断キットでは陰性。26日まで発熱継続し不明熱の診断で入院継続。その後症状改善し29日退院となる。

【日南保健所対応経過】

次頁参照

【保健所における課題と今後の対応】

1 正確で速やかな情報収集

今回はフェーズ3の疫学調査票に基づいて実施した。面接後に疫学調査票の項目にはない情報について関係部署から確認して欲しいと連絡があり、何度も患者家族や主治医に問い合わせることとなった。

初回面接時に正確に確実な情報をとるためには、事前に必要な情報については疫学調査票に明記しておく必要がある。

2 患者居住地と発生地管轄保健所の役割分担

今回は、単発例で宮崎市保健所と共同で積極的疫学調査を実施した。しかし集団感染やより広域に及ぶ事例の場合、速やかに対応するためにも、どの領域をどの保健所の責任で行うのかを、あらかじめ整理しておく必要があると感じた。

3 所内体制の充実

平成19年度は所の健康危機管理体制の強化を検討していたが、初動体制、情報収集、役割分担などを改めて熟考する機会となった。

発生時の初動体制について、具体的に所内の役割分担と実施訓練を行う必要がある。特に、感染症発生動向調査システムへの入力方法については事前に確認しておく必要がある。

また、疫学調査票、疫学調査時持ち出し物品の事前準備や所内マニュアルの整備の必要がある。

4 管内の体制

今回の事例を活用(一部改変)し管内の関係機関で机上シミュレーションを実施することで、関係者の意識啓発と管内の課題共有につながった。

今後は、各医療機関において疑い患者診断後の保健所への連絡方法や具体的な対応についての周知など、医療機関における体制の整備を進めていくよう支援していく必要がある。

また、今回多くの接触者がマスクの着用がなく接触している。咳エチケットについての周知を行う必要がある。

〔参考：関係者会議の開催〕

- 10/11 新型インフルエンザ意見交換
- 11/26 鳥・新型フル防疫演習会・着脱訓練
- 12/4 鳥フル感染疑い事例検証会議
- 12/14 新型フル対策関係機関連絡会議

【おわりに】

今回高病原性鳥インフルエンザが疑われ要観察例として対応した事例を経験し当保健所の対応について整理した。関係機関の協力で原因の究明、積極的疫学調査、2次感染拡大防止を実施することができた。一方、要観察例としての対応の不備や患者居住地と発生地管轄保健所との役割分担、応援態勢、また聞き取りの問題（特に時間的な余裕のない中での把握情報の優先度等）や課題が明確になった。今後、保健所機能として期待されている健康危機事象への適切な対応、特に大規模な感染症事例に備えるために所内外の体制整備に活かしていくつもりである。最後に関係諸機関の御協力に対して感謝いたします。

【参考文献】

- 1) 新型インフルエンザ対応指針
- 2) 積極的疫学調査ガイドライン
- 3) Chua, K.B., Cramer, S., Hyatt, A., Yu, M., Tompang, M.R., Wang, L.F.: A previously unknown reovirus of bat origin is associated with an acute respiratory disease in humans. Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A. 2007; 104(27): 11424-11429

【日南保健所対応経過表】

日時	対応概要
H19.11.22	
8:10	* 健康増進課より第1報。 ・高病原性鳥インフルエンザ疑い事例が発生。 ・38歳男性（日南保健所管内在住者妻と県立宮崎病院受診中）
8:50	< 要観察事例としての対応することを確認 >
9:10	* 宮崎市保健所と協議 * ケース及び家族状況の把握 < 疫学調査等に日南保健所職員の宮崎市への派遣要請あり >
10:30	* 日南保健所保健師2名、宮崎市保健所へ到着、協議 * 所内協議 ・状況把握経過報告 ・当面の対応について

11:00	・結果陽性の場合の保健所の全所対応体制、一般住民、医療機関、マスコミ等への対応等について * 健康増進課から追加情報
11:15	・症例追加情報と本庁内の対応、検査および検体搬送等について。 <u>以降 関係機関と随時情報交換</u>
11:30	ケース：救急外来から感染症病棟へ移動
13:15	* 県立宮崎病院にて面接調査（本人、妻）聞き取り開始 ケース：悪寒、発熱、咳 妻：発熱、咳
20:15	* 衛生環境研究所から検査結果報告 ：H1、3、5（-）
20:50	* 健康増進課に患者調査票と行動調査票、対応経過記録を報告
H19.11.23	* 国立感染症研究所の検査結果 A型同定、H1、H3、H5、N1、Bいずれも陰性 ケース：検査結果を受けて一般病棟へ転棟 * 情報収集
H19.11.26	* ケースのその後の状況確認（県立宮崎病院に照会） 健康増進課、衛生環境研究所に提供
H19.11.29	ケース 退院
H19.12.4	* 事例検証検討会（健康増進課、衛生環境研究所、宮崎市保健所、日南保健所）
H19.12.11	< 衛生環境研究所より原因ペア血清採取の依頼 >
H19.12.14	* 国立感染症研究所からオルソレオウイルスの報告
H19.12.20-26	<u>積極的疫学調査</u> （本人、妻、県立宮崎病院関係者 33名）
H19.12.21	所内協議 ・積極的疫学調査を県の判断で実施することの確認 ・妻の採血・本人の同意・県病院のデータ記録・医療従事者の採血について。救急隊、市郡医師会は宮崎市保健所が実施
H19.12.25	県立宮崎病院と協議、接触者の聞き取り、採血
H19.12.26	ケースへの指導・説明・採血
H19.12.27	衛環研へ積極的疫学調査結果、調査票、血清送付（33検体）

